



題字 井口 文章
再刊 第362号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2021

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：熱い盛り上がりを見せた春季球技大会
決勝戦を振り返ります！
二面：チームを優勝に導いた各種目のMVP
6人にそれぞれの思いをインタビュー

想い背負った最終決戦

2年ぶりの春球大閉幕

5月31日(月)から6月2日(水)までの3日間、2年ぶりの春季球技大会が行われ、各競技でクラスのために戦う錦城生の姿が見られた。今号では、優勝をかけた決勝戦での激闘の様子をお伝えする。



熾烈なゴール際の攻防を繰り広げる3Iと3D

3I対3Dの試合は、開始ほどなくして3Dがフリースローを獲得し、2回目に成功、最初に点を獲得。その後3Iもフリースローを2回とも成功させ2対1に。3Dはボール保持率の高さを活かし丁寧な攻撃を仕掛けるのに、対し3Iは守備の隙間を縫い素早いパス回しでシュートチャンスを狙う、という異なる戦法が見られた。8対7と両者譲らずに第1ピリオドを終える。第2ピリオドは3Dが速攻で得点を狙うが、3Iの堅い守備に阻まれる。3Iはボール保持率も上がり、終了までに15対9と点差が開いた。そして突入した第3ピリオド。3Iがフリースローの2回目を成功させて流れに乗るも3Cには届かず、16対14で3Cが勝利を収めた。

開催を支えた大黒柱

球技大会実行委員の伯勇貴 1、2年生に教えながらで、斗さん(3F)は春球大を振り返り「3日間とありえず予定通りには出来たので、ひと安心変更点があったという。ひとひと話すと、当日は大きな問題もなくタイムスケジュール通りに進み「運営に協力してくれてありがとうございまして」と感謝を語った。自身は、本部に関わりながら野球部としてドッジボールの審判も行ったという。「忙しかつたですが、初めて参加する



「ご協力ありがとうございました」

ルールの変更だ。今回から該当する部活動に所属している生徒でも制限付きで競技に出場することが可能になった。その動きについて「大体上手くいきました」と伯さん。修正や審議が必要なルールは話し合ってから秋球技大会までに改善していくという。最後に9月の秋球大に向けて「普段は勉強や部活で忙しいかもしれないけれど、球大の力でも頑張りたいです」と意気込んだ。(卵)

みんなが楽しめる球大に

次期球大実行委員長の小川悠太さん(2D)にも話を聞いた。「初めて不安な所もありましたが、たくさんの方に助けってもらって楽しく終わることができました」と今回の球大を振り返る。秋球大に向けては「3年生を送るためにも、みんなが楽しめる球大にするために全力で頑張りたいです」(卵)

勝利が決まった瞬間

歓喜に包まれる3J

0のまま前半が終了。後半は再び3Jが前半同様の形で押し込み、1Fはカウナーで攻める展開となる。試合終盤に差し掛かったところで3Jに好機が訪れるも、1Fのキーパーの好守に阻まれ追加点とはならなかった。そのまま

新たな対策の下で尽力

球技大会中にケガをした人の手当などを進めていた保健室に取材した。水田みゆき先生は「今大会から各競技会場本部や大会本部に絆創膏や消毒液などを配り、初期治療をできるようにしました」と話す。この効果として、毎年、球技大会中に1日80~100人程いた保健室利用者が、3日間の合計で98人と劇的に減少したそう。そのため、保健室内の密を避けることができたという。また、今大会ではスポーツドリンクや塩分補給用タブレットを持参するなど、熱中症対策を徹底して行うよう呼びかけが行われた。その結果、保護者の迎えが必要な熱中症患者は1人のみだった。水田先生は「熱中症は人災なので、1人ひとりが注意してほしいです」と話す。秋季大会でも今大会のような対策を行いたいという水田先生。今大会で保健室利用がなかったクラスは1B、2B、2Jの3クラスだ。「大会を安全に楽しめて素晴らしいと思います。次回はさらに保健室利用のないクラスが増えてくれると嬉しいです」とメッセージをくれた。(甘)

メンバー全員で

気合を入れる1K

1K対1Gの一戦は白熱したものであった。第1セットでは先制点を1Gが奪うも、2点取ったところですぐに1Kが取り返す。1Kはそのまま連続で得点し続けて同点へ持ち込み、1Gを抜いて点差を広げていった。結果、15対4という大差で1Kが第1セットを勝ち取る。そして迎えた第2セット。1Gが序盤から攻め、点数を稼ぐ。しかし1Kのスパイクをきつかけに、再び1Kが盛り返す。サーブでの得点や急角度から放たれる鋭い攻撃が次々と決まっていた。会場が熱を帯びる中、1Kがネット際のせめぎ合いを制した。セット数2対0で、春球大の女子バレーボールは1Kが優勝を収めた。

カー一杯ボールを

投げる3A

サドンデスに持ち込まれ、じやんけんして勝った3Hからの投球でスタート。素早いパス回しで攻守が激しく交代しながら両チーム1人ずつ当たった後、3Aが2人続けてボールを3Hに当て、最終的に3Aが優勝を手にした。

むらさき草

錦城では落とし物や忘れ物が後を絶たない。先日行われた球技大会でも、たくさんの落とし物が届けられたそう。特筆すべきはその回収率の高さである。現在届けられている落とし物や忘れ物の多くは、水筒などではなくは困るものがほとんどだ。立教大学心理学名誉教授の芳賀繁氏の話を参考に、落とし物や忘れ物をなくすには無難、注意が必要である。人間の判断や記憶に必要な注意のことで、心理学では「情報処理資源」あるいは「注意リソース」と言い、人間の注意リソースには限りがあるという。そのため、心のゆとりがなくなると、落としたりとしたり、必要なものを思い出したりすることができなくなってしまう。そうだとすれば、落としたり物や忘れ物は減るのだろうか。芳賀氏は、心のゆとりを持ち、荷物が落ちていないか必ず振り返って点検することや、立ち止まって動作を行う、立ち止まって確認するといった習慣をつけること、チェックリストのようなメモを作っておくことを対策として挙げた。これを実践してみたのだが、頻りにして傘などの落としたり物に減り、気持ちの良い日常が送れるようになった。また、忘れ物をしたことによって、登校中に取りに戻ったり、授業で不便な思いをしたりすることもほとんどゼロに。スムーズに行動できるようにもなった。錦城生は日々の小テストや部活などによって、心のゆとりがないことが多い。そのため、落としたり物について忘れてしまったり、そもそも持つべきことを忘れて置いて行ってしまったりすることがあるだろう。しかし、早寝早起きなどの早めの行動によって心のゆとりを持ち、普段から気を付け、習慣づけることで、対策できるのではないかと。そうした積み重ねが落とし物の処分がなくなった気持ちの良い日常へつながるかもしれない。(抹)

男バス 3C対2F

3C対2Fの決勝戦は、3Cがジャンプボールを制し始めた。3Cがスリーポイントを決めて先制点を奪い、続けて追加得点を獲得。その後激しい攻防が続く。どちらも点が入らないまま5対0で第1ピリオドが終了した。第

男バス 3J対1F

優勝をかけた3J対1Fの一戦は1Fのキックオフで始まった。両チームロングキックで攻め立てるも守備陣のクリアに阻まれ、決定機を作り出せない。しかし、次第に3Jが押し込むようになると試合が動く。3Jがハーフラインとペナルティエリアの中間から思い切ったシュートを放つと、鋭い一撃がネットを揺らした。その後1Fが攻勢に出るも、得点は生まれず1対

男バレー 3E対3F

コートやベランダから多くの観客が見守った3E対3Fの決勝戦。第1セットの序盤は三段攻撃による攻防が繰り返され、両者が点を奪い合う。4対4と競り合う中、3Eが先に流れを掴んだ。3Eは4点を連取し15対8で第1セットを手にする。続く第2セット。強烈なスパイクが連続ラリー対決となり、プレーの合間には歓声が起る。後がない3Fはサーブを武器に攻め立て、合計9点を連取して点差を広げ、6対15で3Fが第2セットを勝ち取った。

女バレー 1K対1G

1K対1Gの一戦は白熱したものであった。第1セットでは先制点を1Gが奪うも、2点取ったところですぐに1Kが取り返す。1Kはそのまま連続で得点し続けて同点へ持ち込み、1Gを抜いて点差を広げていった。結果、15対4という大差で1Kが第1セットを勝ち取る。そして迎えた第2セット。1Gが序盤から攻め、点数を稼ぐ。しかし1Kのスパイクをきつかけに、再び1Kが盛り返す。サーブでの得点や急角度から放たれる鋭い攻撃が次々と決まっていた。会場が熱を帯びる中、1Kがネット際のせめぎ合いを制した。セット数2対0で、春球大の女子バレーボールは1Kが優勝を収めた。

女バス 2Hvs2F

2H対2Fの試合は、開始ほどなくして2Fがフリースローを獲得し、2回目に成功、最初に点を獲得。その後2Hもフリースローを2回とも成功させ2対1に。2Fはボール保持率の高さを活かし丁寧な攻撃を仕掛けるのに、対し2Hは守備の隙間を縫い素早いパス回しでシュートチャンスを狙う、という異なる戦法が見られた。8対7と両者譲らずに第1ピリオドを終える。第2ピリオドは2Fが速攻で得点を狙うが、2Hの堅い守備に阻まれる。2Hはボール保持率も上がり、終了までに15対9と点差が開いた。そして突入した第3ピリオド。2Hがフリースローの2回目を成功させて流れに乗るも2Fには届かず、16対14で2Fが勝利を収めた。

女バレー 2Bvs2H

2B対2Hの一戦は白熱したものであった。第1セットでは先制点を2Hが奪うも、2点取ったところですぐに2Bが取り返す。2Bはそのまま連続で得点し続けて同点へ持ち込み、2Hを抜いて点差を広げていった。結果、15対4という大差で2Bが第1セットを勝ち取る。そして迎えた第2セット。2Hが序盤から攻め、点数を稼ぐ。しかし2Bのスパイクをきつかけに、再び2Bが盛り返す。サーブでの得点や急角度から放たれる鋭い攻撃が次々と決まっていた。会場が熱を帯びる中、2Bがネット際のせめぎ合いを制した。セット数2対0で、春球大の女子バレーボールは2Bが優勝を収めた。

サッカー 1Gvs3B

1G対3Bの試合は、開始ほどなくして1Gがシュートを放ち、ゴールを叩いた。その後3Bもシュートを放ち、ゴールを叩いた。試合は白熱した展開をみせた。最終的に1Gが勝利を収めた。

3位決定戦

~もう一つの戦い~

女バス 2Hvs2F
男バレー 3Cvs1L
女バレー 2Bvs2H
男バス 3Dvs2G
サッカー 1Gvs3B

「1人少なくても頑張ってくれたチームに感謝です」



サッカー 中井俊輔さん(3J)

サッカーのMVPには中井俊輔さん(3J)が選ばれた。決勝戦で中井さんは決着点となるロングシュートでゴールを決め、チームを優勝に導いた。「みんなが守備を頑張ってくれたので自分は思い切って攻撃に集中できました。みんなが最後まであきらめなかったからこそ優勝できたと思います」と謙虚に語る中井さん。しかし「サッカー経験者として、クラスを優勝させたいと思っていました」と強い決意があったことも明かした。

決勝戦までの試合で中井さんは1回もゴールを決めることができていなかったという。チームの要となる経験者の立場として強い責任を感じていた。だからこそ決勝でのゴールは「信頼に恥えなければならぬ」という責任感によって決めることができたと言った。

チームとしても優勝を目指してきており、夜も連絡を取り合って試合の戦術を話し合うほどメンバーのやる気は高かったそう。チームの大半はサッカー未経験者だというのが、全員が全力でプレーしていたそう。「チームの1番の強みはチームワーク」と中井さんは胸を張る。決勝当日は1人少ない10人で戦わなければならなかったというが、チームワークを発揮し優勝を勝ち取った。中井さんは「仲間や応援してくれたクラスメイトに感謝し、この喜びをみんなと分かち合いたいです。そして秋は総合優勝したいです」と話した。(香)

ドッジボール 田辺未桜さん(3A)

「周りの人の協力があってドッジボールのMVPになることが出来ました」と話すのは、田辺未桜さん(3A)。「クラスの種目だとバスケもバレーも悔しい結果になっていたので、優勝できてよかったです」と語る。ハンドボール部の長内満里愛さん(3A)と共に「肩の強い人が前に出て、積極的に投げる」という作戦を立てて大会に臨んだ。「作戦だと私は相手の内野の人を当てる専門だったので、活躍できて良かったです」と田辺さん。田辺さんを含め、チームにソフトボール部が3人、ハンドボール部が2人いたことも勝因の一つにあるようだ。

印象に残っている場面については「準決勝、決勝でサドンデスまで持ちこんだときに、外野の人が活躍してくれたこと」と振り返る。

最後にクラスの人に向けて「応援ありがとうございました。みんなが最後まであきらめなかったことで優勝、MVPをとることができました。感謝しかありません。担任の鈴木友里恵先生も一番喜んでくれたので良かったです」とメッセージを送った。秋季球技大会に向けては「今ところドッジボールに出ることを考えています。ドッジボールでは優勝できましたが、次はクラスとしても総合1位を狙いたいと思います」と意気込んだ。(雀)

「最後まであきらめないうことが勝利の秘訣です」



男子バレーボール 岡本大輝さん(3E)

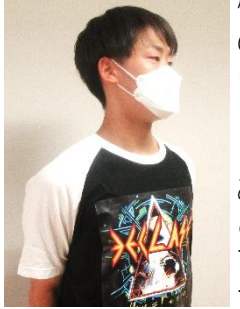
男子バレーボールでMVPに選ばれたのは岡本大輝さん(3E)。MVPになった感想を聞くと「選ばれたのはやっぱり嬉しいです。プレーでは全然活躍できていなかったで、自分がMVPになるとは思っていませんでした。自分がチームを引っ張る立場だから選ばれたのだと思います」と語る。春球大は出場した5試合全勝だったが、準決勝は3セット目までもつれこみピンチを感じたという。

試合では経験者が的確なトスをあげ、未経験者になるべく積極的にスパイクを打って決めるという作戦を取ったそう。そのために「未経験者は経験者に教えてもらいながら徹底的にスパイクを練習し、試合で確実に決められるようにしていました」と振り返った。

チームの強みは、ピンチなときでも切り替えて、流れを変えられるところだそう。チームメイトは前向きに練習に取り組んでいたというが、クラスの

様子は「個人がそれぞれの練習に励んでいたんで自信があって、いい意味で他クラスよりも緊張感がなかったです」と岡本さん。岡本さんはチームメイトへ「自分の『球技大会で優勝したい』という思いにみんなが協力してくれて、優勝することができたので、感謝を伝えたいです。ありがとうございます!」とメッセージを送った。(飛)

「協力してくれてありがとうございます」



2021年度春球大

MVP特集

クラスを優勝に導いたスターたち

2年ぶりに開催された春季球技大会。お互いに火花を散らして戦い、熱戦を繰り広げた錦城生の中でも優勝の立役者となった6人のMVPに、優勝した感想や練習中の様子、秋季球技大会に向けての意気込みを取材した。(編集部共同取材)

女子バレーボール 山室奈々さん(1K)

MVPに選ばれた山室奈々さん(1K)は「本当に優勝できると思っていなかったので嬉しいです」と話す。小学5年生のころからバレーボールを続けており、中学ではキャプテンを務めていた。錦城でも女子バレーボール部で活動しているようだ。

今回の勝因は「クラスメイトが懸命に応援してくれたこと、チームで率先してボールを取りに行けたこと、みんなが強気でサーブを打ったことだと思います」と話す山室さん。特に応援の力は大きかったという。「バレーボールでは精神面がプレーに大きく関わるので、自チームの力になるだけでなく、相手に圧力をかけられるという意味でも助けになりました」と語った。

全ての試合をストレート勝ちした1Kだが、手に汗握る試合もあったそう。山室さんは「2回戦目の試合は得点が2点差だったので焦りました」と話す。練習は、サーブを重点的にを行い、残りはメンバーごとに改善していった。

その際、バレー部の顧問である担任の園分は美先生のアドバイスも力になったという。「コート外から、先生に『焦らない!』と声を掛けてもらえたことで、硬くならずプレーできました」と話す山室さん。チームメイトに向けて「最後まで一生懸命戦ってくれてありがとうございました」とメッセージを送った。(卵)

「冷静にプレーすることができました」



男子バスケットボール 中川雄貴さん(3C)

男子バスケットボールのMVPに選ばれたのは中川雄貴さん(3C)。2Fとの決勝戦を「常に相手を警戒して万全の状態です」と笑顔で振り返る。決勝でもゾーンプレス(相手に高い圧力をかけて、ミス誘発させる積極的なディフェンスの戦術)を徹底的に行ったそう。その戦術が功を奏し、何度も相手のパスをカットする場面が見られ、カットしたボールで速攻を仕掛け大量の得点を獲得した。

試合終盤の2Fの怒涛の追い上げについて、相手の「絶対に点を取るんだ」という気迫があつても恐ろしかったという。優勝した感想について「第2ピリオドまでは0点に抑えられていて、最後まで冷静にプレーし、優勝することができて良かったです」と安堵した表情で述べる。

チームの強みは、身長はあまり高くはないが、バスケ経験者が多く個人のレベルが高いことだという。試合に向けてチームメイトと共に、毎日フットサルコートで懸命に練習してきたと話した。相手チームの長所は鋭いパス回しだそう。チームメイトに対して「練習してきた成果がしっかりと試合に生かされて良かったです」と笑顔で話す。次の秋季球技大会へ向けて「決して油断せずに相手チームのことを分析して戦って行きたいです」と意気込みを語った。(桂)

「仲間との連携で勝利をつかいました」



女子バスケットボール 佐藤みおさん(3I)

1年次の秋球大から、2回連続で女子バスケットボールに出場したという佐藤みおさん(3I)。優勝した感想について「初めての優勝なので、嬉しいです」と笑顔を見せる。今回の球大には、「ファウルをしないこと」をモットーに挑んだ。そのため、厳しくファウルがとられると聞いた決勝戦が心配だったそう。「ディフェンスの時に疲れるとすぐ手が出てファウルをしてしまうので特に意識しました」と話す。

決勝戦の相手の3Dは、今まで対戦してきた中で1番経験者が多いチームだったという。「全体的にはパスがよく通っていたと思います。第2ピリオドからはバスケ経験者ではないチームメイトのシュートが入り始めて、点差を広げられました」と振り返った。

佐藤さんの印象に残った試合は準々決勝の2Hとの試合。「勝てるかどうかギリギリの状態でも頑張って勝つことができたので、それ以降の試合の自信につながりました」と語った。また相手チームの雰囲気会場が飲み込まれることでチームが暗くなり、負けてしまわないよう、クラスメイトに応援をお願いした試合もあった。

チームメイトには「いい流れを作ってくれてありがとうございます」と述べ、秋球大に向けて「またバスケに出場したいです。2年生も強いチームが多かったです。勝ちたいです」と話した。(鳥)

「フェアプレーを意識して試合に臨みました」



笑顔と涙の3日間～春球大、お疲れさまでした!

男子										女子											
サッカー	バレー	バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	得点	サッカー	バレー	バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	得点	サッカー	バレー	バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	得点	
1A						7	1A						25	3A							18
1B						11	1B						18	3B							18
1C						7	1C						40	3C							40
1D						3	1D						36	3D							36
1E						0	1E						30	3E							30
1F						27	1F						19	3F							19
1G						24	1G						14	3G							14
1H						7	1H						15	3H							15
1I						8	1I						30	3I							30
1J						9	1J						32	3J							32
1K						20	1K						13	3K							13
1L						12	1L						9	3L							9
2A						14	2A							2A							14
2B						24	2B							2B							24
2C						6	2C							2C							6
2D						10	2D							2D							10
2E						9	2E							2E							9
2F						24	2F							2F							24
2G						12	2G							2G							12
2H						23	2H							2H							23
2I						12	2I							2I							12
2J						6	2J							2J							6
2K						7	2K							2K							7
2L						25	2L							2L							25
2M						7	2M							2M							7

・本戦勝利は3点「○」、敗者復活ブロック勝利は2点「△」

・ABブロック決勝の勝利は4点「◎」、優勝は5点「☆」

・3位決定戦の勝利は2点「▲」、3決出場決定戦は0点「■」